

2 個別事業評価調書

団体名: 笠置町

事業名		防災備蓄倉庫整備事業					
事業の概要	<p>地域や立地状況を照らし合わせ、もしもの事態を想定することは行政として不可欠であり、その整備を常日頃から行う必要があります。そのため、笠置町では毎年度道路改修や急傾斜地崩壊対策負担金等を支出しているところです。</p> <p>昨年度では、京都市市町村未来づくり交付金を活用し、笠置町地域防災計画の更新を行っており、平成3年度から見直しを図っていなかった水防対策の更新を実施したところです。その計画更新により、現在の笠置町の実情に沿った防災方針が固められ、様々な整備が必要となっています。</p> <p>そこで、安心・安全なまちづくり事業として今年度は、もしもの有事に備える防災・水防備蓄倉庫を新たに整備設置しました。</p>						
	事業期間	平成19年5月～平成20年3月					
	総事業費	16,766千円	本年度事業費	16,766千円	交付金交付額	8,255千円	
事業評価	事業の必要性	阪神・淡路大震災や中越地震、また京都市北部の大水害が記憶に新しい昨今ですが、笠置町には現在防災時に備える備蓄倉庫がない状況であり、緊急事態が発生した場合の対応に不安な状況であるといえます。					
	事業の有効性	防災備蓄倉庫の設置場所として、笠置町の東西を貫通する主要道路である国道163号線沿いを選定し、有事対応の即時性を高めています。					
	事業の効率性						
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					
		2 住民の自治意識を高める成果					
		3 リーディング・モデル成果					
4 広域的波及成果							
5 行財政改革に資する成果							
6 その他の成果							
<p>今年度防災・水防備蓄倉庫を2機設置し、車椅子にも対応する災害用トイレをはじめとした災害対策備品の整備を行いました。また設置場所については上記のとおり国道163号線沿いであり、また町営バスの停車場前でもあるため停車スペースが確保されており、緊急車両の発着・備蓄物の搬送がスムーズに行える場所となっています。そのことから緊急時の対応性が非常に高く、より災害に強い安心・安全なまちづくりに繋がりました。</p>							

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。